

農産物の生産履歴 全国の外出・小売に提供

三井物産・JFE エンジ農家とネットで結ぶ

三井物産とJFE エンジニアリングは共同出資で新会社を設立し、今秋から農産物のトレーサビリティ(生産履歴の管理)サービスを全国展開する。生産現場から小売りや外食企業、消費者までをインターネットで結び、農薬の散布状況など生産履歴を簡単に把握できる仕組みを構築する。食の「安全・安心」に対する関心が高まっていることに対応、新たな収益源に育成する。

新会社を設立

新会社「アグリコンパス」(東京・千代田、資本金2億円)を折半出資で設立した。農家から消費者までを一貫して結ぶシステムを構築。農家の生産履歴はデータセンターに蓄積し、会員制でネットを介して提供する。

農家がパソコンなどの情報端末を使って入力した農薬の種類、散布量、日付などの青果物情報について、卸売業者や外食企業がネット経由で全国どこでも簡単に確認できる。「自社の提供する料理の食材が必要以上の農薬を使用されていないか」といったチェックが可能。料金などは今後詰めるが、新会社は5年後に売上高20億円を目指す。

三井物産は子会社で生産履歴を管理できる情報端末を商品化しており、今回のサービスにも活用する方針。JFE エンジは卸売市場の自動せりシステムや集出荷管理システムなどを手掛けている。両社のノウハウを融合させて新サービスを提供、海外展開も検討する。

農産物のトレーサビリティは「農業者」や「農業協同組合・農業法人」「卸・流通企業」「小売り・外食・中食企業」など、それぞれが情報システムを個別に運用している。このため外食企業や小売りの場合、契約栽培農家以外から仕入れる農産物については、生産履歴をさかのぼって確認できなかった。